

「化石の卒業制作(8)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



教室のホワイトボードには、私が作った試作品や、他のクラスの子どもの作品を掲示しておいた。これは結構好評で、参考にする子どもが多かった。

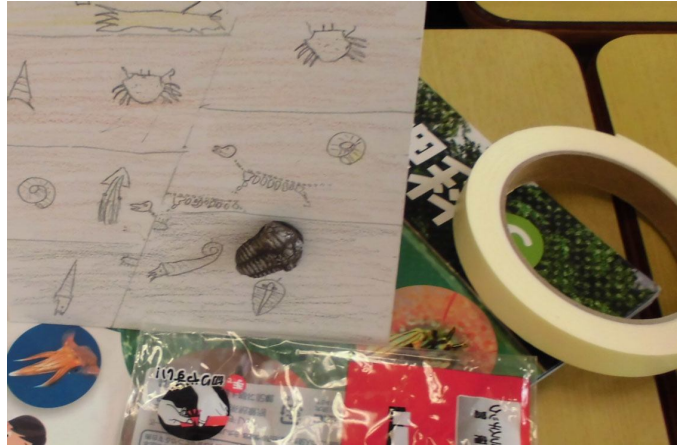


これは、火道(マグマの通り道)と火山。古生代から新生代までを貫く、なかなか大胆な表現。



最初に三葉虫のレプリカを配った。短くなったチョ

ークも一緒に配った。チョークを表面に薄く塗ると、より立体感が強調されるようになるのだ。



紙粘土で作った三葉虫のレプリカは、厚手の両面テープで直接台紙に貼る。この両面テープも「コスト削減」の為、100円ショップで仕入れた。



三葉虫のレプリカを貼ったあとには、空いた場所にラベルを貼る。この子どもは、せっかく描いた背景の生き物の絵が隠れてしまうのを、残念がっていた。



背景は特にカラフルにする必要はない。この子ども作品のように、地味ながらも、その地質年代の示準化石が緻密に描かれているものもある。「自分だけの作品」として仕上がっていくのが面白いところだ。